



県土整備部長 西畑 雅司

「美しい県土づくりニュース」の読者の皆様、新年おめでとうございます。

日頃から県行政に対しまして、ご理解、ご協力を賜っておりますこと誠にありがとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は、福島県、和歌山県、宮崎県と知事が3人も公共事業に関する不正で逮捕されるという異常な年でした。地方行政、とりわけ公共事業に対する信頼を裏切る許せない事件です。

10年ほど前にも、宮城県知事、仙台市長が逮捕されるということがありました。その後、官も民も大いに反省し自戒してきたはずなのに、また繰り返されたことは残念でなりません。

このことにより、やっぱり公共事業は何かしら胡散臭いものと県民に思われ、公共事業に対するイメージが一気に悪くなったことは、公共事業に携わる一人として慚愧に堪えません。

橋が悪いわけでも、道路が悪いわけでも、下水道が悪いわけでも、そして、そこで汗して働く技術者や労働者が悪いわけでも決してありません。

公共事業は人々が心安らかに暮らしていくために必要なものを、住民からいただいている税金で国や県や市町村が住民に代わって造り、管理しているもので、本来、気高い事業だと考えております。

ところで、部長室に1枚の拓本を貼っています。「戒石銘」と呼ばれているもので、福島県二本松市の霞ヶ城の入口の花崗岩に刻まれているものです。

爾 俸 爾 禄 (なんじのほう なんじのろくは)

民 膏 民 脂 (たみのこう たみのしなり)

下 民 易 虐 (かみんは しいたげやすきも)

上 天 難 欺 (じょうてんは あざむきがたし)

「お前の給料は、人々が脂して働いたその賜物より得ているのである。お前は人々に感謝し、労らなければならぬ。もしこの気持ちを忘れて弱い立場にある人達を虐げるようなことがあれば、きっと天罰が下るであろう。」

といった意味だと自分なりに理解しています。旧建設省の工事事務所長の時から、自戒を込めて机の近くの目に触れるところに貼って、折にふれて見るようにしています。

さて、公共事業に携わっている皆様へ、私たちはこれまでより良い県土、より良い地域にするために工事や管理、そのための計画、調査、統計、用地交渉、住民説明など、それぞれの現場現場で地域や住民への熱い想いを胸に、経験、技術、知識を駆使して、それぞれの役割を果たしてきました。

その使命は不変であろうと思いますが、手段、手法は地域地域、時とともに工夫しなければならないと考えております。自分の頭で考え、地域の方々と話し合い、皆で知恵を出し合ってチャレンジしていきたいと考えております。

多くの方々と議論でき、地に足をつけてひとつひとつ着実に実践できる1年でありたいと願っております。道は長いですが、皆様の不断の努力が悪いイメージを払拭できる唯一の方法だと信じます。

最後に、皆様そしてご家族にとりまして今年が、ご健勝で実り多き年でありますよう心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。